

# プロスポーツ振興「栃木モデル」構築に関する研究会

## 第1回【会議レポート】

日時：2014年3月26日（水）15：00～17：00

場所：作新学院大学 中央研究棟 2F 第1会議室

テーマ：オリエンテーション～研究会の趣旨と今後の展望～

### 1. 概要

栃木県内のプロスポーツをめぐる主要アクターが一堂に会し、今後のプロスポーツ振興のあり方を議論する研究会が開始された。構成メンバーは、県内の産業界を牽引する「（公社）栃木県経済同友会」、スポーツマネジメント学科の創設を通じて本格的な支援に着手する「作新学院大学」、県内で活躍する4プロスポーツクラブ（「栃木サッカークラブ」、「リンク栃木ブラックス」、「H.C.栃木日光アイスバックス」「宇都宮ブリッツェン」）で、オブザーバーとして各自自治体（栃木県、宇都宮市、日光市、佐野市）が参加する。この研究会は、産官学が有機的に連携した栃木県独自のプロスポーツ振興のしくみ（「栃木モデル」）を構築することを目指し、2015年2月までに計11回の講演・会議をはじめとした様々な活動を展開していく。

第1回目目の今回は、研究会を主導する作新学院大学の小山准教授によって、「研究会の設立の経緯」と「栃木モデルの基本コンセプト（案）」についての説明がなされ、研究会の「今後の展望」が示された。その要点について以下にまとめる。



研究会代表を務める、  
作新学院大学小山さなえ准教授



研究会の様子

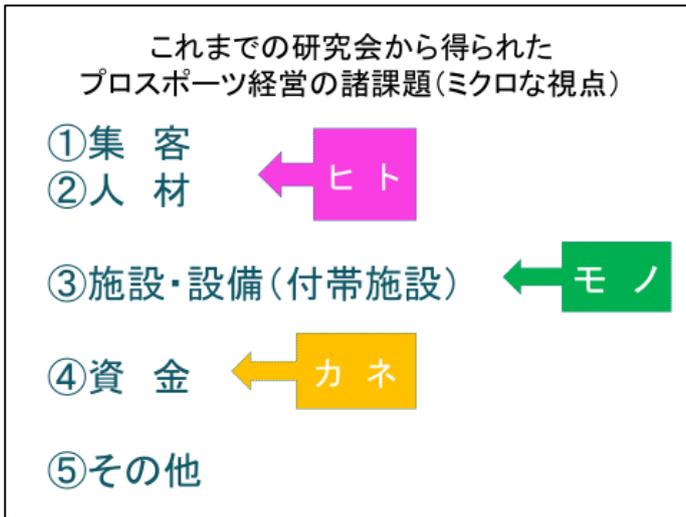
### 2. 研究会設置の経緯

2014年4月に経営学部の学科再編によって新たにスポーツマネジメント学科を立ち上げる作新学院大学の発案によって、2013年9月26日「作新学院大学と4プロスポーツチームとの連携協定」が締結された。この協定を大きな契機として、大学と4プロスポーツチームは人的・物的・知的資源を相互に有効活用しながら地域活性化を目指す方向性を確認した。さらに、「地域活性化支援実行委員会」が核となりプロスポーツ支援のあり方を検討してきた栃木県経済同友会から協力を得ることで、産学連携による取り組みをスタートした。

そこでまず、本研究会のメンバーのみで構成するインナー会議（2013年11月～2014年2月：計7回）を実施し、各プロチームの現状を共有しながら、さらなる自立化に向けた経営課題について議論した。その結果、各チームに共通する経営課題は①集客、②人材、③施設・設備、④資

金といった観点にまとめられること（図1）、そしてそれを解決するために産官学がさらに連携を深めながら「プロスポーツ振興栃木モデル」を構築する必要があることを確認した。そして、栃木モデルの構築に向けた調査研究活動を進展すべく、本研究会を開催することとした。

【図1】



### 3. プロスポーツ振興「栃木モデル」の基本コンセプト

「栃木モデル」の基本コンセプト（図2）は産官学連携で達成すべき理念をまとめたものであり、そこで示された理念とは地域活性化やまちづくり、教育的効果、地域アイデンティティの構築といった「スポーツの多面的価値」を高めることである。そして、そうした理念を達成するために、短期的課題として「プロスポーツの自立的発展」、長期的課題として「プロスポーツの社会性の発揮」が位置付けられた。このコンセプトの特徴は、プロチーム自身の「自立」といったマイクロな次元の問題だけでなく、多様なアクターの「連携」によって県民の豊かなスポーツライフの実現に寄与するという「プロスポーツの社会性の発露」をマクロ的課題として重要視する点にある。そして、その推進を担う組織としてスポーツコミッションの活用可能性を検討することが基本コンセプトとして示された。

【図2】



#### 4. 今後の展望

上記の理念を達成するための重要施策として本研究会は実施されるが、そのスケジュールは表3の通りである。多様なアクターがそれぞれの立場から意見を述べることを基軸としながら、プロスポーツ支援の方向性が模索されていく。今回の参加者からは「4プロは栃木の宝である」「プロスポーツは公共的・公益的な性格を持つ」といった可能性が指摘されたが、そうしたポテンシャルをさらに発展させるためには、本研究会をはじめとした産官学連携の一層の深まりが求められている。

文責：関根正敏（作新学院大学経営学部講師）

【表3】

#### プロスポーツ振興「栃木モデル」構築に関する研究会 開催スケジュール

	日程	内容	報告	会場	形式
第1回	3/26(水) 15:00	オリエンテーション ～研究会の趣旨と今後の展望～	作新学院大学経営学部 准教授 小山 さなえ 氏	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第2回	4/23(水) 16:00	4 プロスポーツ経営の現状と課題	TSC(田蔵 大地取締役)、フレックス(藤本 光正取締役) アイスパックス(土田 英二取締役)、ブリッツェン(廣瀬 佳正GM)	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第3回	5/30(金) 16:00	スポーツコミッションの意義と可能性を考える	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 原田 宗彦 氏 (さいたまスポーツコミッション 副会長)	中央研究棟 108教室	講演形式
第4回	6/25(水) 16:00	プロスポーツ支援の現状と課題	栃木県経済同友会、栃木銀行、あしぎん総研	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第5回	7/24(木) 16:00	スポーツツーリズムによる新たな価値の創出	筑波大学体育系 准教授 高橋 義雄 氏 (日本スポーツツーリズム推進機構 常任理事)	中央研究棟 108教室	講演形式
第6回	8/12(火) 16:00	スポーツによる地域活性化と行政の役割	栃木県、宇都宮市、日光市、佐野市	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第7回	9/26(金) 16:00	2020 東京オリンピック・パラリンピックと地域スポーツ	独立行政法人 日本スポーツ振興センター 理事長 河野 一郎 氏 (予定)	作新清原ホール (予定)	講演形式
第8回	10月	スポーツとジャーナリズム	下野新聞社、NHK宇都宮放送局、株式会社とちぎテレビ	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第9回	11/19(水) 16:00	スポーツビジネスの新展開	ゼビオ株式会社 常務執行役員 中村 考昭 氏	作新清原ホール (予定)	講演形式
第10回	12/15(月) 16:00	PRとは ～スポーツに注目を集める“ニュース作り”のヒント～	株式会社電通パブリックリレーションズ 藤野 加奈 氏	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第11回	2015年 1/28(水) 16:00	大学の果たす役割と可能性	作新学院大学経営学部 専任講師 関根 正敏 氏	中央研究棟 第1会議室	会議形式
第12回	2015年 2月	シンポジウム ～「栃木モデル」構築に向けて～	総括報告：作新学院大学経営学部 准教授 小山 さなえ 氏 パネリスト：田蔵 大地氏 (TSC)、藤本 光正氏 (フレックス)、土田 英二氏 (アイスパックス)、廣瀬 佳正氏 (ブリッツェン)、 栃木県経済同友会、行政機関 (検討中) 小山 さなえ 氏 (作新学院大学) <コーディネーター>	作新清原ホール (予定)	講演形式